

News Letter

第18回全国大会および第8回日本・モンゴル国際シンポジウム開催予告号

2008年5月
経営行動研究学会会報
第60号

第18回全国大会および第8回日本・モンゴル国際シンポジウム開催にあたって

大会実行委員長 菊池 敏夫

新緑の季節を迎え会員の皆様、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

経営行動研究学会第18回全国大会は8月5日(火)・6日(水)・7日(木)の3日間にわたり中央学院大学(千葉県我孫子市)で開催されます。統一論題は「現代の経営行動―新しい局面と課題―」が設定され、スピーカーとして5名の先生方それぞれご専門の立場からこのテーマに向って接近し新たな視点から問題提起がなされ活発な議論が展開されるものと期待しています。また、自由論題の報告テーマは18の多様なテーマのもとに日頃の研究がそれぞれの報告者によって発表され実りある成果を期待しております。統一論題をはじめ、自由論題の報告においても、いずれも経営行動に対する多様な研究分野からの接近が示され、経営行動研究学会ならではの感がいたします。会員の皆様のご参加を心から歓迎いたします。

なお、第18回全国大会の開催期間中に第8回日本・モンゴル国際シンポジウムが開催されます。シンポジウムのテーマは「資源・環境・企業行動をめぐる諸問題―北東アジアの視点から―」で、このテーマのもとに日本側4名、モンゴル側7名の報告が予定されています。モンゴル側代表団はT.ドルジ団長(モンゴル経済ビジネス連合会長、モンゴル国立大学教授)以下36名で、報告者には初代大統領P.オチルバット氏がおられます。第18回全国大会の期間中に時間的に重複しないようにプログラムが編成されておりますので、国際シンポジウムの方にも、ご出席頂きモンゴルとの国際文化、学術交流の現場に参加されることを歓迎いたします。

第18回全国大会および第8回日本・モンゴル国際シンポジウムが開催されます中央学院大学は千葉県我孫子市にあり、JR日暮里駅から常磐線快速で30分(我孫子駅北口下車スクールバスで5分)のところにあります。学園の歴史は古く、中央商業学校の創立以来百年余、大学設立43年を経過し、現在、商学部、法学部、大学院商学研究科が設置されています(ほかに付属の高等学校2校)。現在、経営行動研究学会の会員は10名(飯島寛一、加藤達男、高橋 律、濱沖典之、寺戸節郎、望月敏江、関岡保二、大澤一雄、増尾賢一、菊池敏夫)で、大会準備、運営上、何かと行き届きの点があるかと思いますが、学長の全面的なご支援で充実した大会およびシンポジウムにいたしたく努力しておりますのでどうぞ会員多数のご参加をお待ちしております。

第18回全国大会および第8回日本・モンゴル国際シンポジウムプログラム

全国大会統一論題：「現代の経営行動 — 新しい局面と課題—」

シンポジウム統一テーマ：「環境・資源・企業行動をめぐる諸問題— 北東アジアの視点から—」

2008年8月5日（火） 8：40 受付開始（6号館1階）

❖ 経営行動研究学会第18回全国大会報告 ❖

自由論題 I 9：10～9：55（報告30分，コメント・質疑15分）

6号館	A会場(3階 631教室)	B会場(3階 632教室)	C会場(3階 633教室)
テ — マ	研究プロジェクト報告 「現代企業の所有・リスク・ファイナンス」	「オープンイノベーション論の新展開—オープンソース型のオープンビジネスモデルに向けて—」	「見えざる資産の情報源泉となる企業活動情報に関する考察—定量調査による実証研究—」
報 告 者	関岡保二(中央学院大学) 増尾賢一(中央学院大学) 日隈信夫(日本大学)	永島暢太郎(東海大学)	小具龍史(立教大学大学院)
コメンテータ 司 会 者	樋口和彦(白鷗大学) 藤澤廣一(㈱日本証券クリ アリング機構)	中村公一(駒澤大学) 咲川 孝(新潟大学)	石崎忠司(中央大学) 小林 稔(和光大学)

自由論題 II 10：00～10：45（報告30分，コメント・質疑15分）

テ — マ	研究プロジェクト報告 「技術的シーズの商業化に関する研究」	「「場」の多様化と調律のマネジメント—製造現場の実態調査から—」	「携帯電話産業における環境負荷」
報 告 者	板倉宏昭(香川大学) 齋藤貞之(北九州市立大学)	浅井紀子(中京大学教授)	豊澄智己(広島修道大学) 三浦浩之(広島修道大学)
コメンテータ 司 会 者	高垣行男(駿河台大学) 金子逸郎(明治大学)	谷内篤博(文京学院大学) 川端大二(愛知学泉大学)	丸山豊史(高松大学) 三浦康彦(アトレック ワイム 経営)

自由論題 III 10：50～11：35（報告30分，コメント・質疑15分）

テ — マ	「なぜ石油化学製品技術の実用化は妨げられるのか—質問票調査データによる分析—」	「グローバル時代の人材育成と大学・産業界の連携の強化—アジアの青年に比し、活力の乏しい日本の若者—」	「グローバル企業のリスクファイナンス手法としてのキャプティブ（自家保険子会社）の現状と課題」
報 告 者	篠崎香織(東京富士大学) 永田晃也(文部科学省科学技術政策研究所)	西村和義(三菱マテリアル(株)社友・中国延安大学客員教授)	島田公一(㈱あいおい基礎研究所)
コメンテータ 司 会 者	安田聡子(関西学院大学) 佐々木 茂(高崎経済大学)	吹田尚一(社)日本経済総合研究所) 岩井清治(桜美林大学)	江澤雅彦(早稲田大学) 太田三郎(千葉商科大学)

昼 食 11：35～12：40（6号館 2階 621教室）

2008年8月5日(火) 6号館 9階 691室

※ 経営行動研究学会・モンゴル経済ビジネス連合共催 ※
第8回日本・モンゴル国際シンポジウム

統一テーマ：「環境・資源・企業行動をめぐる諸問題―北東アジアの視点から―」

開 会 式 12:40~13:30 (集合写真撮影の時間含む)

第1報告 13:30~14:20 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「鉱山部門におけるエコノミーとエコロジーの矛盾の解決局面」

報告者 : プンサルマー・オテルバット (元モンゴル国大統領・憲法裁判所メンバー)

司会者 : プレブジャブ・ガンスフ (ザブハン県知事・経済学博士)

第2報告 14:25~15:15

テーマ 「北東アジアにおけるエネルギーと環境」

報告者 : 岩間 剛一 (和光大学教授)

司会者 : 金山 権 (桜美林大学教授)

コーヒープレイク (15:15~15:25)

第3報告 15:25~16:15 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「モンゴル国の医療体制の特徴」

報告者 : ツルム・ムハル (セネラルシブ 外院長・ナショナル健康研究所副所長・医学博士)

司会者 : バブドルジ・ダワースレン (モンゴル国立科学技術大学産業技術・デザイン学部長)

第4報告 16:20~17:10 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「日本における医療制度改革と今後の病院管理・経営」

報告者 : 坂田 壽衛 (社会保険横浜中央病院名誉院長・
日本大学大学院グローバルビジネス研究科教授)

司会者 : 厚東 偉介 (早稲田大学教授)

第5報告 17:15~18:05 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「モンゴルの鉱業会社の発展の特徴」

報告者 : バトスーリ・ラハイスレン (モンゴル国立科学技術大学鉱業学部長)

司会者 : ラフガワスレン・ムンフバタ (モンゴル民族大学学長)

8月6日(水) 8:40 受付開始 6号館 9階 691室

第6報告 9:00~9:50 (報告35分, 質疑・討論15分)

テーマ 「モンゴルにおける自然資源の持続的管理」

報告者 : ヒジャバ・イカンバイ (教授・博士, モンゴル自然・環境省政策計画部長)

司会者 : オチル・バタ-エルデネ (大蔵省外国投資局局長・経済学博士)

第7報告 9:55~10:45 (報告35分, 質疑・討論15分)
テーマ 「日本企業の環境問題への対応事例—日立グループの取組みの現状と課題—」
報告者 : 宗岡 広太郎 (日立製作所 顧問)
司会者 : 竹野内 勝次 (竹野情報工学研究所代表取締役・千里金蘭大学非常勤講師)

コーヒープレイク (10:45~10:55)

第8報告 10:55~11:45 (報告35分, 質疑・討論15分)
テーマ 「モンゴルにおけるマーケティングと経営発展の展望」
報告者 : ダリジャブ・ダグワドルジ (モンゴル国立大学経済学部教授・
モンゴルマーケティング協会会長)
司会者 : トゲー・バタバヤル (Kapital銀行代表取締役・経済学博士)

第9報告 11:50~12:40 (報告35分, 質疑・討論15分)
テーマ 「モンゴルにおける中小企業の発展の特徴」
報告者 : チェレンドルジ・ドルゴルスレン (ウランバートル・エレデム大学教授)
ドルジ・アリマ (ウランバートル・エレデム大学長)
司会者 : オチル・ラハグワレンツェン (国会付属被肅清者復権委員会主任会員)

昼 食 12:40~13:20 (6号館 2階 621教室)

第10報告 13:20~14:10 (報告35分, 質疑・討論15分)
テーマ 「モンゴルにおける人口変動と第一次・第二次人口ボーナスの創出」
報告者 : 小川 直宏 (日本大学人口研究所所長)
司会者 : 飯島 寛一 (中央学院大学教授)

第11報告 14:15~15:05 (報告35分, 質疑・討論15分)
テーマ 「モンゴルにおける環境モニタリング, 農業, 牧草地管理への衛星データ (MODIS)」
報告者 : プレヴドルジ・ツェレンフー (いであ株式会社IT事業本部画像センシング事業部理
学博士・エキスパートエンジニア)
司会者 : エルデネサイハン・フレルバートル (MONRE会社社長)

閉 会 式 15:05~15:20

経営行動研究学会 第18回 全国大会

統一論題報告 (6号館 1階 611教室)

統一論題: 「現代の経営行動 — 新しい局面と課題—」

第I報告 15:40~16:35 (報告35分, 質疑・討論20分)
テーマ: 「社会起業家の経営行動における課題」
報告者: 堀田 友三郎 (東海学園大学)
司会者: 亀川 雅人 (立教大学)

第Ⅱ報告 16:35~17:35 (報告35分, 質疑・討論20分)

テーマ: 「日本的経営は変容したか—原理・構造・制度—」

報告者: 池内 秀己 (九州産業大学)

司会者: 櫻井 克彦 (東海学園大学)

会員総会 17:40~18:20 (6号館 1階 611教室)**懇親会・レセプション 18:30~20:00 (6号館 9階 691室)****8月7日(木) 経営行動研究学会第18回全国大会 (6号館 1階・3階)****自由論題報告 8:40 受付開始 (6号館 1階)****自由論題Ⅳ 9:10~9:55 (報告30分, コメント・質疑15分)**

6号館	A会場(3階631教室)	B会場(3階632教室)	C会場(3階633教室)
テ — マ	「会社法からみたコーポレート・ガバナンスに関する一考察」	「税務会計における簿記・会計のアウトソーシング問題」	「CSRと事業継続マネジメント」
報 告 者	望月敏江(中央学院大学)	濱沖典之(中央学院大学) 新野正晶(呉 大学) 谷崎 太(西南女学院大学)	仲間妙子(千葉商科大学経済研究所)
コメンテータ	水谷内徹也(富山大学)	佐藤信彦(明治大学)	小室達章(金城学院大学)
司 会 者	飢富 順久(和光大学)	長谷川恵一(早稲田大学)	長濱昭夫(桜美林大学)

自由論題Ⅴ 10:00~10:45 (報告30分, コメント・質疑15分)

テ — マ	「CSRと株主の関係—社会的費用と有限責任制の関連をめぐって—」	「トライアングル体制の一考察—企業会計と税法を中心に—」	「松下電器産業の中国における環境マネジメント」
報 告 者	粟屋仁美(比治山大学)	弓削忠史(九州共立大学)	陳 静(桜美林大学大学院)
コメンテータ	出見世信之(明治大学)	林 雅之(金沢星稜大学)	石山伍夫(日本大学)
司 会 者	村上 陸(大阪学院大学)	工藤久嗣(淑徳大学)	鈴木岩行(和光大学)

自由論題Ⅵ 10:50~11:35 (報告30分, コメント・質疑15分)

テ — マ	「日本企業の戦略とコーポレート・ガバナンス—ものづくり優良企業に見る経営改革の動向と課題—」	「会計情報の有用性と会計情報の公開開示の必要性—会計倫理からのアプローチ—」	「「経験」とマネジメント—M. P. フォレットの創造的経験を通して—」
報 告 者	土屋勉男(明治大学)	孔 炳龍(駿河台大学) 市川紀子(駿河台大学)	西村香織(折尾愛真短期大学)
コメンテータ	菊澤研宗(慶應義塾大学)	齋藤 淳(LEC 会計大学院)	野村千佳子(山梨学院大学)
司 会 者	勝部伸夫(熊本学園大学)	寺戸節郎(中央学院大学)	對木 隆英(日本大学)

昼 食 11:35~12:35 (6号館 2階 621教室)

統一論題報告 (6号館 1階 611教室)

第Ⅲ報告 12:35~13:30 (報告35分, 質疑・討論20分)

テーマ: 「市場原理主義への批判—企業行動の新しい視点—」

報告者: 竹内 一樹 (長野経済短期大学・日本大学)

司会者: 加藤 達男 (中央学院大学)

第Ⅳ報告 13:35~14:30 (報告35分, 質疑・討論20分)

テーマ: 「会計基準の国際的統合と業績報告」

報告者: 田中 建二 (明治大学)

司会者: 徳谷 昌勇 (東京農業大学・早稲田大学)

第Ⅴ報告 14:35~15:30 (報告35分, 質疑・討論20分)

テーマ: 「日本的経営技術の国際移転」

報告者: 常田 稔 (早稲田大学)

司会者: 西川 智登 (東京都立科学技術大学)

研究部会報告

○第67回研究部会・2008年4月12日(土)於 早稲田大学9号館 法商研究棟5階会議室

●報告テーマ: 「医療機関の経営行動—医療費増加の寄与因子について—」 報告者: 八木麻衣子氏 (立教大学大学院) 司会・コメンタ: 高橋 淑郎氏 (日本大学商学部教授)

本研究は、医療機関の経営行動を(1)医療費の増加要因を医療技術の進歩と仮定し、検証した。次に、(2)医療技術の進歩を高度医療と判断し、高度医療を提供している病院の経営行動を考察するという2つの視点から分析することで、医療費増加の寄与因子を見出し、経営行動と医療費を関係付けようという狙いがある。この研究のユニークなところは、医療費という医療経済学的分析を経営の枠組みに取り入れようという視点であると思う。しかしながら、医療費の増加要因の仮説と検証に、より深い検討を要する。すなわち、医療技術はその開発だけでなく、診療報酬制度での収載、高度先進医療認定などと病院の特殊性も考慮しなければならない。同時に、混合診療や特定療養費制度なども加味して考える必要がある。すなわち、混合診療の全面解禁は新規医療技術の保険導入を阻害するとも考えられるからである。さらに初歩的な点で、医療経営全般の知識、考察不足も感じられた。例えば、日本の医療の特徴を述べられた箇所では、自由開業医制度に触れられていない。これは開業者が自ら資金調達して開業する方式であり、国家予算や公的保険から設備資金は給付されない。したがって、一般企業と同様に、資金繰りに失敗した場合は倒産する。一方で、利益が出ても自由に処理できない上、医師の個人的要因も加味されるので、医療資源の偏りが生み出されるという点で、私的病院の経営行動に制約を与える。さらに先行研究の調査と読み込みを強化したい。病院という個体の医療費という面では、日本福祉大学の二本教授が、その著書の中で、報告者と異なった見解を展開している。また、外国文献でも、医療費と経営を考察している文献は存在する。『[新規医療技術の公的]医療保険導入の決定—国際比較研究』(“Health Care Coverage Determinations—An International Comparative Study” Ed. Jost TS, Open University Press, 2005)も役立つ。広く医療を理解しながら、研究テーマを絞り込んでいくとより深い考察、論理展開ができると考えられる。可能性を秘めた発表なので、今後の更なる発展が期待できる。(高橋淑郎 記)

●報告テーマ: 「野村徳七商店の企業倫理」 報告者: 野村 千佳子氏 (山梨学院大学経営情報学部准教授) 司会・コメンタ: 小林 俊治氏 (早稲田大学商学部教授)

日本の代表的な証券会社である野村証券のルーツは、初代の野村徳七により明治5年に大阪で設立された両替店、野村徳七商店である。初代が創業した両替商を第2次世界大戦以前に野村コンツェルン、

野村財閥にまで発展させたのは、2代目の徳七とその実弟である野村実三郎であった。野村千佳子氏の報告は、2代目徳七の企業倫理および企業理念を中心テーマとし、かれを支えた野村実三郎の哲学や貢献にも触れた説得力のある報告であった。

本報告は、2代目徳七が証券業界の社会的評価を高めるために、とくに、社員教育の強化、営業方式の倫理化さらには調査の科学化を進めたことを強調した。ただ、実三郎の家系に直接つながる報告者には、もう少し第三者にはうかがい知れない具体的な資料を発掘して欲しかった。しかし、本報告が、野村證券の初期の歴史に関して、今日においてもっとも信頼のおける研究のひとつであることは明らかである。(小林俊治 記)

●報告テーマ：「内発的動機づけおよび戦略的活動に対する意識の関係性—わが国病院を対象にしたモデルの検証および今後の研究の展望—」報告者：渡邊 直人 氏（早稲田大学商学大学院助手）司会・コメンター：高橋 淑郎 氏（日本大学商学部教授）

本報告は、医療バランスト・スコアカードの領域では、これまであまり取り扱われなかった、因果連鎖の強弱を数値化して可視化し、病院からの多くのデータを収集し、分析し、病院職員の内発的動機と戦略的活動の関係を見ようとする意欲的な発表であった。アンケートのサンプルも多く、これを継続的に行っていくことで、何かが見えてくると思われるが、サンプルの病院が、わが国の医療サービス供給の平均像を示すものではなく、調査病院が、わが国でも医療サービス供給システムとして特殊な存在に存在したり、わが国にありながら、日本の病院マネジメントとはいえないような、欧米化した病院であったりしている。今後、わが国の医療を表現するようなサンプルを集める努力が望まれる。次の指摘事項は、分析フレームワークを、再度、検討して頂きたい。すなわち、内発的動機付けの権威であるエドワード・デシの考え方を援用しているのであるから、もう少し、デシの思考を参考にしたらどうであろうか。それは、内発的動機付けを維持するためには「有能感」「自律性」「関係性」が大切だと述べていることなどを切り口にしてもよいかもしれない。最後に、モデルの検証や再吟味も必要である指摘は、当日のフロアからも指摘されていた通りである。できるだけ病院や医療の基礎知識を身につけないと、モデル化の際もネックになろう。さらに、医療について知らない、医療界では親身に研究をサポートしてもらえない場合が多々ある。現場に出ることも一つの方策であろう。本研究は、医療におけるバランスト・スコアカードを扱った論文としては、その発想と切り口が、これまでにないものであり、必ず医療界で役立つと思われる。より一層、研究を深めていって欲しい。それがわが国の閉鎖的な医療界に刺激を与えることになるであろう。(高橋淑郎 記)

今後の部会開催予定

◆経営行動研究学会第22回中部部会開催◆

下記の通り、中部部会を開催しますので、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。なお、今回は経営哲学学会中部部会との合同開催となります。

日時：平成20年6月14日(土) 13:30～ 参加費 500円

場所：東海学園大学大学院栄サテライトキャンパス

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-21 久屋南KTビル9F

TEL 052-251-6321 (代) (地下鉄名城線『矢場町』駅4番出口、南へ200m)

※ 駐車場は利用できませんので、公共交通機関をご利用下さい。

プログラム1. 研究報告 (報告35分・コメント10分・質疑15分)

(1) 「社会起業家の理念における一考察」

報告者：中京大学大学院 速水智子氏

司会・コメンテーター：愛知学院大学 津田 秀和 氏

(2) 「「場」の多様化と調律のマネジメント—製造現場の実態調査をもとに—」

報告者：中京大学 浅井 紀子 氏

司会・コメンテーター：名古屋工業大学 竹野 忠弘 氏

(3) 「経営哲学の認識方法について」

報告者：明治学院大学 肥田 日出生 氏

司会・コメンテーター：愛知産業大学名誉教授 増田 茂樹 氏

2. 議 事 (1) 次回開催校の件 (2) その他

終了後、懇親会を行ないますので、こちらも是非ご参加下さい。(懇親会費 3,500 円) 次回は、12月に中京大学で開催の予定です。

経営行動研究学会中部部会部会長 櫻井 克彦 (東海学園大学)

●第68回研究部会・2008年7月12日(土)、明治大学 研究棟、第1会議室

◆新刊書(学会会員著)紹介◆

- ・『経営計画策定とファイナンス戦略』亀谷祥治著, 日刊工業新聞社, 190頁, 2007年8月30日発行, 定価2,000円(税別)。
- ・『イノベーション創発の戦略経営論—環境認識・トリガー特定・トリガーの戦略化』森俊也著, 創成社, 178頁, 2008年1月15日発行, 定価2,200円(税別)。
- ・『明治に学ぶ企業倫理—資本主義の原点にCSRを探る—』弦間明, 荒蒔康一郎, 小林俊治, 矢内裕幸監修, 日本取締役協会編, 生産性出版, 344頁, 2008年3月11日発行, 定価2,800円(税別)。
- ・『日本的雇用システムの特質と変容』谷内篤博著, 泉文堂, 227頁, 2008年3月15日発行, 定価2,900円(税別)。
- ・『21世紀の地域コミュニティを考える—学際的アプローチ』三好和代編著・中島克己編著, 秋武孝春(第1章), ミネルヴァ書房, 276頁, 2008年3月15日発行, 定価3,990円(税別)。
- ・『小売業態の国際移転の研究 国際移転に伴う小売業態の変容』青木均著, 成文堂, 233頁, 2008年3月20日発行, 定価3,500円(税別)。
- ・『理念と戦略の経営学』水谷内徹也著, 内田康郎著, 学文社, 182頁, 2008年4月10日発行, 定価2,000円(税別)。
- ・『産業クラスターの経営学 メゾ・レベルの経営学への挑戦』二神 恭一著, 中央経済社, 341頁, 2008年4月10日発行, 定価4,000円(税別)。
- ・『企業の責任・統治・再生—国際比較の視点—』菊池敏夫・平田光弘・厚東偉介編著, 文真堂, 242頁, 2008年4月15日発行, 定価2,700円(税別)。
- ・『経営者自己統治論—社会に信頼される企業の形成—』平田光弘著, 中央経済社, 410頁, 2008年5月30日発行, 定価5,000円(税別)。

委員会日より

研究委員会 部会報告の募集について……本人申込み・推薦いずれかにより、それぞれ所定の用紙(申込み用紙は学会事務局にあります)に記入のうえ、学会事務局に開催予定日の3ヶ月前までに送付する。応募多数の場合は、研究委員会の審議を経て決定します。なお、部会開催についてご協力を頂けます大学がありましたら、事務局までご連絡申込みくださいますようお願いいたします。

会報委員会よりのお願い：会員諸氏により新たに学術著書を出版された時は、学会に一部ご恵贈下さいますようお願いいたします。会報にてご紹介させていただきます。

発行 経営行動研究学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-8

東京中央ビル7F707号経営行動研究所内

2008年5月31日発行

TEL. 03-3263-2586 FAX. 03-3263-4466

<http://www.soc.nii.ac.jp/jam/index.html/> e-mail: jarbab@alpha.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 櫻 栄 TEL. 03-3288-5571